

めざす児童生徒像

【やさしい子】	自分も人も大切にする子
【かしこい子】	自ら学ぶ子、学び合う子
【たくましい子】	チャレンジし、自分を高める子

※児童生徒結果－教員結果・保護者結果

	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（％）			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
学校重点項目	主体性・協働・協調	①②③の姿を目指している教員・児童が、中間…85％以上 年度末…90％以上	① 自分から挨拶をしたり、あたたかい言葉を使うようにしたりしている。	85.7	87.4		1.7	①目標を上回っている。 ②児童は88.0％で達成しているが、教員は80％を下回っている。教員と児童では9.4の差が見られ、意識に差がある。 ③教員・児童ともに目標を下回っている。目当て達成に向けての具体的な取組が明確になっていないと考えられる。	①挨拶や温かい言葉がけは、継続して取り組んでいく。 ②ハッピーこくふの授業を、日々の授業でも児童と共有し、意識して取り組んでいく。 ③個人や学級でめあてを明確にし、めあて達成に向けての具体的な方策や、振り返りをしていく。
			② 自分からハッピーこくふの授業に取り組んでいる。	78.6	88.0		9.4		
			③ めあてをもち、めあてに近づけるように取り組んでいる。	78.6	81.0		2.4		
			集計	80.9	85.5		4.5		
	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目				※差	達成状況の分析	改善策
	働き方や業務の改善	①②とも意識的に行っている教員が85％以上	① 50時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	71.4				①71.4％と目標指標を下回った。時間外削減の取組を具体的に進める必要がある。 ②目標指標を上回っている。	①定時退校日を意識し、計画的に業務を進めていけるよう、業務の進捗状況を確認し、時間外削減をめざす。 ②校務分掌部会等で、取組の目的を明確にするとともに、各担当業務の進捗状況を確認していく。
			② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。	85.7					

	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（％）			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
小松市共通重点項目	学校研究	①②の平均が 中間…85％以上 期末…90％以上	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、具体的な取組を共通実践している。	92.9				①研究の重点、「ハッピーこくふの授業」の提案、提案授業等を通して授業スタイルが共有できてきているため85％を超えたと考える。 ②ハッピーゼミで、研究の重点を意識した授業づくりに向け話し合いが進められ、振り返りを共有できたため、目標指数を上回ったと考える。	①1学期の振り返りをもとに、2学期に具体的な取り組みを確認し、共通実践につなげていく。 ②ハッピーゼミで、更に授業実践の推進や、日々の実践を交流することで、自分の実践に生かしていきたいことを絞り取り組んでいく。
			② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	92.9					
			集計	92.9					
		①②④の平均が 中間…80％以上 期末…85％以上	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	85.7	85.1		-0.6	①②④については、平均が80％以上となり、目標は達成している。「ハッピーこくふの授業」「にじ色対話」「振り返りの視点」を児童と共有し実践してきたためと考える。しかし、①については、教員と児童の差が0.6、④については、10.6と開き、教員より児童の評価が低い。②については、教員と児童の評価が10.7で、児童の評価の方が高くなっている。	①10月当初、ハッピー国府授業について教員と児童で、目指す姿を再度共有する。単元のゴールや学習計画、1時間の流れを児童と共有し、児童自身が見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ②「にじいろ対話」の意義を児童と共有したり、モデルを示したりしながら、考えを深める交流を増やしていけるようにする。 ④各学年の実態に応じて「振り返りの視点」の項目に合わせた振り返りを行い、他者参照や価値づけにより質を高め、できたことや次の学習につなげる意識を持たせるようにしていく。
			② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができている。	78.6	89.3		10.7		
			③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	64.3	76.0		11.7		
			④ 児童生徒は、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。	92.9	82.2		-10.6		
			⑤ 児童生徒は、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用し、友達と考えを共有したり比べたりすることができている。	85.7	79.3		-6.4		
			集計	81.4	82.4		1.0		
	指導力の向上	①②③④の平均が 中間…80％以上 期末…90％以上	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	92.9				・項目①②③④の平均が89.2％である。 ・項目①②③は90％以上であるが、項目④が約7割となっている。これは、1学期間に小中連携の会（全体会）を開催することができなかったことが要因であると考えられる。	④夏季休業中に主任による小中連携の会を開催する予定になっている。そこで話し合われたことを職員に周知することで、中学校を見据えた指導に生かしていきたい。
			② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。	92.9					
			③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	100.0					
			④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。（小中連携）	71.4					
			集計	89.3					
		①の児童の割合が、 中間で80％以上、 年度末で85％以上 ②の児童の割合が、 中間で85％以上、 年度末で90％以上	① 児童生徒は、分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。	85.7	85.5		-0.3	・項目①は目標指数を達成している。 ・項目②は83％である。中学年92％、高学年76％であることから、高学年においてはICT機器を使って自分のペースで学習を進めている活動が少ない傾向にあることが分かった。	・項目②については、QubenaやSkyMenuなどを活用して学習を進める活動を意図的に設けた単元計画を考え、自分のペースで学習を進める機会を増やす。
			② 児童生徒は、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用し、自分のペースで理解しながら学習を進めることができている。	85.7	83.0		-2.7		
			集計	85.7	84.2		-1.5		